

## 愛知用水水利観音について

### はじめに

愛知用水に関する Web 上の資料を集めていたところ、ヤフーオークションに愛知用水水利観音（以下、水利観音）が出ているのを発見した。

水利観音については、『生誕 100 年山崎延吉の生涯』（1974 年、愛知県立安城農林高等学校同窓会）で、浜島辰雄が「昭和三十年、愛知用水の建設が本格的となったおり、その着工を記念してもろもろの願いを籠め、久野庄太郎さんが私財を投じて施無畏の観音像とその分身三百体を用水建設の同志とその協力者に頒けられました。この観音像は常滑の陶聖柴山晴風さんの手になるもので、愛知用水水没各地の土を蒐めてつくられました。」とある。また『愛知用水と不老会』（2005 年）には「工事現場の土を集めて常滑の柴山青（ママ）風先生に五百体の観音像を造ってもらって犠牲のあるたびに持って行って弔った」とある。また 2021 年 6 月 13 日中日新聞社説「流れる水は腐らない 週のはじめに考える」には、通水後アメリカの世銀本部に別に作らせた水利観音を手土産に挨拶に行ったことが書かれている。水利観音は愛知用水に関わる人たちに届けられた記念品のような位置付けだろうか。

そうしたものがオークションに出されるというのはどういうことだろうか。オークションに記載された情報では、作は坂口晴風とあった。この人物を調べてみると木彫作家で、陶製の水利観音の製作者とは思われない。作者についても調べてみる必要があるだろう。

そこで実際にオークションに出されている水利観音を入手し、水利観音にまつわる話を調べてみることにした。

### 愛知用水会館にある水利観音

先に、愛知用水会館 2 階に展示されている水利観音を調べてみることにした。これは持ち主の家族が管理し続けることができないと言って、愛知用水会館に持ち込まれたものだという。詳細は不明である。

水利観音の脇に掲示されている説明書きによれば、水利観音は常滑の陶聖・柴山清風によるもので、原土は愛知用水水没各要所の土を集めたものだという。1955 年に久野庄太郎が私財を投じて観音像を 300 体作り、用水建設の犠牲者や用水の協力者に配ったとある。先に記した『愛知用水と不老会』には 500 体とあり、実際には幾つ作られたのか、どの時点で数えたものなのかわからない。

愛知用水会館の水利観音の台座の表には「愛知用水水利観音」、裏には「光水祈願」とある。底部には何も記されておらず、ピンクの丸シールがあり「25-2」と書いてあった。台座直径 15cm、高さ 54cm。



### オークションで手に入れた水利観音

オークションの情報によれば、正面横 6.7cm、高さ 22.0cm、奥行 6.7cm とあり、愛知用水会館にあるものよりもだいぶ小ぶりである。底部には「願主 久野光水／辛丑／晴風謹作」とあり、辛丑は 1961 年を指すので愛知用水通水の年のものだ。台座には「奉祈用水安全 諸人快樂 愛知用水水利観音」とあった。全て手彫りと思われる。

水利観音を入手する機会はこの逃したらないと思い、思い切ってオークションで 6,575 円で落札した。



## 水利観音作者・柴山清風

愛知用土地改良区事務局長・近藤文男氏（当時）が「柴山清風展」（2019年6月）の図録を持っていらしたので拝見し、清風の孫・寛氏（1946年生まれ）の連絡先をみつけた。自身が入手した水利観音について画像を送り、問い合わせしてみた。すると後日お電話をいただいた。以下のような話であった。

- ・作は坂口晴風とあるが、これは柴山清風の商品である。祖父は時々「晴風」と記す時があった。
- ・オークションの情報では「正面横6.7、高さ22.0、奥行6.7cm」とあったが、これは「7寸もの」で、石膏型で抜いて作るもので、ほとんどがこのサイズだった。しかし出品されているものは手作りで、なにか特別に作ったものだろうと思われる。
- ・水利観音の特徴は胸に壺を持っていること。つくったのは300体とも500体とも言われるが、実際には大量生産は大変なことで、100体、200体かもしれない。その生産数の記録は残っていない。
- ・覚えていることは、この水利観音についてはすべて久野庄太郎の注文によるもので久野が配っていた。浜島辰雄とは会ったことがない。
- ・記憶のなかにある久野は知多市寺本にいて、必ず来るときは寺本まんじゅうを持ってきてくれた。それが温かくて「どえらいうまかった」ことを覚えている。また家に寺本まんじゅうがあると、久野が来たことがわかった。清風は酒が飲めず、酒の土産はなかった。
- ・久野と清風は観音像作家ということでの出会いだらう。
- ・昭和36（1961）年ごろ、清風は水利観音をつくっていた。
- ・5-6体、水利観音の改良体があり、責任者らに配られている。
- ・吉田茂には久野は水利観音ではなく、清風の商品の灰皿を持っていった。吉田茂の妻・イクコからの礼状がある。同じ灰皿を展示していたが盗まれてしまった。
- ・清風は水利観音を作るときは仕事場に犠牲者36人の名前を書いたものをずっと置いていた。B5サイズほどの便箋で、縦線が入っており、縦に名前だけが並べてあった。便箋3-4枚あったと思う。
- ・愛知用水神社のところにある観音は大きいものだけれど、もう少しこぶりなものは久野家にもあるようで、庭先で撮った写真を見た。
- ・愛知用土地改良区にある水利観音は5体ほどある。
- ・石膏型の小さな物は芯が空洞。大きな物も紐作りなので芯は空洞になる。そして両耳に穴開けて芯の空洞とつなげる。焼くと芯の空気は耳を通ることになり、均一に焼け、爆ける可能性が低くなる。

## 久野庄太郎邸にあった水利観音

筆者が水利観音を入手したことを知り、（株）三祐コンサルタンツ・久野叔彦氏が、久野庄太郎宅を整理するなかで、2種類の水利観音を確認したと連絡をくださった。

量産タイプ（紙箱入り）のものと、やや、手の込んだタイプ（木箱入り）のもので、後者の台座には印があるとのこと、後日見せていただくことになった。



（株）三祐コンサルタンツを訪ねたところ、右4種を拝見できた。一番左は筆者のもの。



左から

1) 達 Yahoo オークションにて2021年購入：高さ21cm

底部「願主久野光水 辛丑（1961年） 晴風謹作（手彫り）」

台座：直径6.5cm「愛知用水水利観音 奉祈用水安全 諸人快樂（手彫り）」

メモ：手作りであることがわかる部分あり

2) 久野家：高さ 22.5cm

木箱書表「愛知用水水利観音像」

裏「用水願人 久野庄太郎」

底部「願主久野光水（手彫り）清風（印字）」

台座：直径 6.5cm「愛知用水水利観音 用水安全（手彫り）」

メモ：薄い色合いで光沢あり

3) 久野家：高さ 22cm

木箱書表「水利観音」

裏「清風作 朱印」

底部「清風（印字）」

台座：直径 6.5cm、文字なし

メモ：1) より薄く 2) より濃い、光沢なし、耳穴あり

4) 久野家：高さ 19cm

紙箱表「観世音彫像 清風作」

底部：緑のフェルト貼

台座：直径 5.8cm、文字なし

メモ：昭和 55（1980）年 1 月 18 日付愛知用水発起人久野庄太郎「本観音像御由来」入り、水利観音と同容姿

5) 久野家：高さ 22cm

紙箱表「観世音彫像 清風作」

底部「清風作（手彫り）」緑のフェルト貼

台座：直径 8cm、文字なし

メモ：昭和 51（1976）年 5 月 18 日付「高松宮同妃両殿下啓を仰いで開眼ご供養の日」愛知用水発起人久野庄太郎「本観音像御由来とご謹呈のわけ」入り、像の容姿が異なる

この時点で、あと愛知用水土地改良区に 1 つ、愛知用水神社の隣の観音堂に 1 つで 7 種あることがわかった。以下の数値は『柴山清風展—没後 50 年—陶彫にみる清風のこころ—』図録（2019 年 6 月 1 日～7 月 7 日、半田市立博物館）より。

6) 愛知用水水利観音（愛知用水神社）96cm、1958 年

7) 愛知用水水利観音（愛知用水土地改良区）54cm、1961 年

## 柴山清風の工房にあった水利観音

次に故柴山清風の工房を展示館にしている孫・寛氏を訪ねた。そこにも上記とは異なる 2 体の水利観音があった。



8) 左：柴山寛氏（清風の孫）：高さ 23cm

底部「清風作（手彫り）」

台座：直径 6.5cm、文字なし

メモ：イラン行きの観音と思われる。三祐コンサルタンツはイランのダム建設しており、イランの土で水利観音制作の依頼（久野庄太郎より）があった。焼けた土は緑色。詳細は分からないが、土のテストをした灰皿があるとのこと。寛氏解説「焼成テストした灰皿と若干色が違いますが 多分この観音像がイランに行ったものです。イランはイスラムだから偶像崇拜はしないと思います。1つの型のできる複製は 20 体まで型のコピーは可能ですがあまり作らないと思います。」

9) 右：柴山寛氏（清風の孫）：

底部なし

台座：直径 6.5cm、文字なし

### 久野家に残る水利観音

久野庄太郎の次男の妻・久野康子氏は愛知用水の春秋の大祭には必ず出席している。康子氏によれば、運転手がまだいなかった庄太郎をたびたび柴山清風のところに送っていったという。

柴山寛氏（清風の孫）が愛知用水観音堂の水利観音を撮影したいということでいらした時に、ご自分が持っている水利観音を 2 種、ご持参くださった。

康子氏持参の水利観音は、ひとつは三祐コンサルタンツにあったものとおなじで、もうひとつは初めて見た小さいものだった。庄太郎を訪ねてきた人にお土産として渡していたという。（後から確認したところ、これも三祐コンサルタンツで見たものと同じかもしれない。）



本観音像御由来

ご本尊は愛知用水水利観音と称へ奉ります。ご本像は知多市佐布里池畔高台にたてせまします。日常愛知用水利用者のご信仰まことに篤く、その霊験は実にあらたかでありますのは、この用水流域に生きる人間は元より、動植物、一つとしてこの用水の恩典に浴せぬものはありません。

故に利用者は用水を我が命として日々その安全と隆昌をお祈りされます。当ご本像は、業務多忙、距離の遠隔、老弱又は病身等にて、日頃ご参拝出来難き信者のためにご本山観音像と同じ浄土をもって、同じ陶工が心を尽して謹製した観世音像であります。お仏壇でも、お床の間でも棚の上でもどこでも結構です。成可くお目にどまるところに安置されて日々お国の安泰、五穀豊穰、身体健康、商売繁昌をお祈り下さい、必ずあなた様の諸願成就が可います。ここに謹んでご本像を捧げます。

昭和五拾四年拾月拾八日  
愛知用水発起人  
久野庄太郎 謹白

10) 左：久野康子氏：2) 久野家に同じ？  
木箱書表「愛知用水水利観音像」  
裏「用水願人 久野庄太郎」

底部「願主久野光水（手彫り）清風（印字）」

台座：直径 6.5cm「愛知用水水利観音 用水安全（手彫り）」

メモ：薄い色合いで光沢あり底部なし

11) 右：久野康子氏：4) 久野家に同じ？

底部：緑のフェルト貼

台座：直径 5.8cm、文字なし

メモ：昭和 55（1980）年 10 月 18 日付愛知用水発起人久野庄太郎「本観音像御由来」入り

以上、現在 11 体を確認している。

### 愛知用水水利観音に関する 2 つの記事

#### 昭和 36（1961）年 5 月 26 日 毎日新聞

- ・ 55 人（正しくは 56）の犠牲者の冥福を祈るため
- ・ 制作費のたしにと久野はタバコも止めた。
- ・ 大は 100cm 近く、小は 30cm 足らずの **250 体の観音像**の製作
- ・ うち 64 体は幹線と支線水路の分岐点に、残りは世話になった吉田茂元首相、牧尾ダムの湖底に水没した長野県西筑摩郡王滝、三岳村の人たちに贈りたい。



1961 (昭和 36) 年 6 月 11 日 中部日本新聞 (現中日新聞)

- 5 月 13 日第 14 回中日文化賞受賞、賞金で観音像 180 体製作、6 月 11 日完成
- 30cm の観音像、高松宮、吉田茂ら歴代首相と関係者に送る。

# 賞金で180体の観音像

## 愛知用水の安全祈り

中日文化  
賞受賞者  
知多の久野さんが作る



「須賀賞」愛知用水を最初に受けて推進する五月十三日、四回中日文化賞を授けられた愛知縣知事久野多喜郎氏、農務、久野庄太郎さんなどは、受賞金を用いて安全な生活を送る観音像百八十体の制作にかかっていたが、十日竣工した。

久野氏は千尋の観音像に「わらわは観音さまの御守り」を刻んだこともあったが、用水に水が漏れぬようにと、刀、中札などをつけた。このため、観音像は十三日より五つに完成した。計百八十体の観音像も完成した。

その喜び用水の限りない恩恵を受ける気持ちを観音像を制作する高松宮、山田清太郎氏に依頼し、制作が完了した。観音像は高松宮のものだが、百二十個にはおとぎ話水路の上で、とろろ八十八箇所から取り寄せた土材料に作り、像の左手は胸のあたりにあつて「ワタシ」(限りなく水がくま)を刻み、右手は「たなごころ」を胸に刻み、無言のうちに「たなごころ」の気持ちを表わしている。

この像は愛知用水の誕生に協力した高松宮をはじめ、吉田元首相ら歴代首相の御守りとなる。

完成した観音像を見る久野さん

(公財) 愛知・豊川用水振興協会 研究員 達 志保